

參考資料

ぜん息の通院者数 国民生活基礎調査より

全国 年	(千人)						
	総数	男性	女性	0～14歳	15～64	65歳以上	不詳
平成22年	1641	791	850	446	682	516	—
19	1554	768	786	437	603	509	4
16	1618	817	801	472	645	502	0
13	1514	763	750	425	642	446	0
10	1289	678	611	386	536	366	1

東京 年	(千人)						
	総数	男性	女性	0～14歳	15～64	65歳以上	不詳
平成22年	216	109	108	59	100	57	—
19	178	90	88	53	72	53	—
16	197	107	90	78	68	50	—
13	186	90	96	53	90	44	—
10	134	66	68	42	55	37	—

「通院者」とは、世帯員（入院者を除く。）のうち、病気やけがで病院や診療所、あんま・はり・きゅう・柔道整復師に通っている者をいう。

ぜん息の推計患者数 患者調査より

全国		(千人)											
年	性別	総数	0~4歳	5~14	15~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~84	85歳以上	不詳
平成23年	総数	134.0	36.5	31.3	5.3	6.1	9.6	7.9	8.7	11.5	12	4.1	0.9
	男性	66.1	21.5	18.7	2.5	2.5	3.2	2.6	3.4	4.9	5	1.4	0.5
	女性	67.9	15.1	12.6	2.9	3.7	6.4	5.3	5.3	6.6	7.1	2.7	0.4
平成20年	総数	118.6	31.1	25.2	4.5	7.1	7.7	6.7	8.5	11.6	11.8	4.1	0.3
	男性	58.9	18.2	14.7	2.2	2.9	3.0	2.6	3.4	4.6	5.5	1.6	0.1
	女性	59.7	13.0	10.5	2.3	4.3	4.6	4.1	5.1	7.0	6.3	2.5	0.1
平成17年	総数	155.8	44.2	33.2	5.7	9.8	10.4	8.6	11.6	15.7	12.0	4.2	0.3
	男性	78.6	26.3	19.7	2.8	4.1	3.9	3.4	4.5	6.8	5.5	1.4	0.2
	女性	77.2	17.9	13.5	2.9	5.7	6.5	5.2	7.2	8.9	6.5	2.8	0.2
平成14年	総数	152.8	37.6	33.6	7.5	9.6	8.5	9.3	11.5	17.7	13.1	4.1	0.3
	男性	79.1	22.0	20.3	4.2	4.4	3.8	3.8	4.6	8.2	6.1	1.5	0.2
	女性	73.6	15.6	13.2	3.3	5.2	4.7	5.4	6.9	9.5	6.9	2.6	0.1
平成11年	総数	167.4	36.5	39.9	11.2	10.8	10.2	10.3	13.3	18.3	12.7	3.7	0.5
	男性	89.8	22.8	24.9	6.1	4.9	4.3	4.4	5.9	8.9	6.1	1.4	0.2
	女性	77.6	13.7	15.0	5.0	5.9	5.9	6.0	7.4	9.4	6.6	2.4	0.3

東京		(千人)											
年	性別	総数	0~4歳	5~14	15~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~84	85歳以上	不詳
平成23年	総数	16.2	4.1	4.9	0.8	0.8	1.4	1.1	0.7	1	0.9	0.4	0.2
	男性	8.1	2.4	2.9	0.4	0.2	0.5	0.4	0.3	0.4	0.1	0.2	0.1
	女性	8.1	1.7	2	0.4	0.6	0.8	0.6	0.4	0.5	0.8	0.1	0.1
平成20年	総数	9.9	1.9	2.0	0.5	1.2	0.9	0.7	0.5	1.0	0.9	0.2	0.1
	男性	4.3	1.0	1.0	0.3	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.5	0.1	-
	女性	5.5	1.0	1.0	0.3	0.8	0.5	0.4	0.3	0.8	0.4	0.1	0.1
平成17年	総数	17.2	5.5	4.4	0.6	0.8	1.7	0.8	1.0	1.4	0.7	0.2	0.1
	男性	8.5	3.2	2.7	0.4	0.4	0.6	0.3	0.1	0.5	0.3	0.0	-
	女性	8.6	2.2	1.8	0.2	0.4	1.2	0.5	0.8	0.9	0.4	0.1	0.1
平成14年	総数	13.1	2.0	3.2	0.9	1.0	1.2	1.2	0.8	1.7	0.8	0.2	0.0
	男性	6.6	1.4	1.8	0.6	0.5	0.5	0.5	0.2	0.8	0.1	0.2	-
	女性	6.4	0.6	1.4	0.3	0.6	0.6	0.7	0.6	0.9	0.7	0.1	0.0
平成11年	総数	14.6	3.3	3.8	1.2	1.2	1.0	0.7	1.0	1.1	1.0	0.2	0.1
	男性	8.1	2.3	2.5	0.6	0.5	0.3	0.2	0.5	0.5	0.6	0.1	0.0
	女性	6.5	1.0	1.4	0.5	0.7	0.6	0.5	0.5	0.7	0.4	0.1	0.1

推計患者数（患者住所地）、性・年齢階級×傷病小分類×入院一外来・都道府県別（総数）

推計患者数： 調査日当日に、病院、一般診療所、歯科診療所で受療した患者の推計数である。

ぜん息の受療率 患者調査より

全国 年	(人口 10 万人対)										
	性別	総数	0~4 歳	5~14	15~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~
平成 23 年	総数	107.0	700.0	280.0	43.0	41.0	51.0	51.0	47.0	78.0	112.0
	男性	108.0	803.0	327.0	39.0	32.0	34.0	34.0	37.0	70.0	117.0
	女性	105.0	591.0	231.0	48.0	50.0	69.0	69.0	56.0	85.0	110.0
平成 20 年	総数	93.0	576.0	214.0	34.0	43.0	43.0	43.0	45.0	78.0	120.0
	男性	95.0	656.0	243.0	33.0	34.0	33.0	34.0	37.0	66.0	142.0
	女性	91.0	492.0	184.0	35.0	52.0	52.0	52.0	53.0	88.0	107.0
平成 17 年	総数	122.0	789.0	277.0	41.0	54.0	62.0	52.0	62.0	111.0	140.0
	男性	126.0	917.0	320.0	40.0	44.0	46.0	41.0	48.0	103.0	162.0
	女性	118.0	656.0	231.0	42.0	64.0	78.0	63.0	75.0	118.0	127.0
平成 14 年	総数	120.0	640.0	275.0	50.0	51.0	53.0	49.0	69.0	130.0	171.0
	男性	127.0	731.0	325.0	54.0	46.0	47.0	41.0	57.0	129.0	209.0
	女性	113.0	545.0	222.0	45.0	56.0	59.0	58.0	80.0	131.0	150.0
平成 11 年	総数	132.0	614.0	312.0	67.0	58.0	64.0	54.0	80.0	144.0	194.0
	男性	145.0	747.0	380.0	72.0	52.0	53.0	45.0	73.0	153.0	251.0
	女性	120.0	474.0	241.0	62.0	65.0	75.0	62.0	87.0	137.0	163.0

東京 年	(人口 10 万人対)										
	性別	総数	0~4 歳	5~14	15~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~
平成 23 年	総数	123.0	803.0	497.0	62.0	42.0	60.0	62.0	41.0	70.0	99.0
	男性	124.0	910.0	583.0	57.0	23.0	44.0	47.0	32.0	68.0	76.0
	女性	122.0	691.0	407.0	67.0	62.0	76.0	79.0	50.0	71.0	114.0
平成 20 年	総数	77.0	387.0	196.0	39.0	58.0	40.0	48.0	29.0	70.0	94.0
	男性	68.0	370.0	196.0	39.0	34.0	35.0	40.0	26.0	35.0	124.0
	女性	86.0	405.0	196.0	40.0	84.0	45.0	55.0	33.0	100.0	74.0
平成 17 年	総数	136.0	1130.0	463.0	40.0	36.0	90.0	53.0	55.0	107.0	90.0
	男性	136.0	1306.0	544.0	48.0	33.0	57.0	44.0	16.0	84.0	80.0
	女性	137.0	944.0	377.0	32.0	38.0	125.0	63.0	94.0	127.0	96.0
平成 14 年	総数	107.0	416.0	328.0	59.0	48.0	68.0	73.0	48.0	137.0	123.0
	男性	109.0	558.0	364.0	80.0	44.0	59.0	55.0	28.0	135.0	92.0
	女性	105.0	266.0	290.0	37.0	53.0	77.0	91.0	68.0	140.0	143.0
平成 11 年	総数	123.0	695.0	381.0	76.0	55.0	62.0	42.0	63.0	102.0	163.0
	男性	138.0	955.0	480.0	80.0	46.0	44.0	27.0	61.0	90.0	255.0
	女性	109.0	423.0	278.0	72.0	65.0	82.0	56.0	65.0	112.0	112.0

受療率 (人口 10 万対), 性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別 (総数)

受療率: 推計患者数を人口 10 万対であらわした数である。 受療率=(推計患者数/国勢調査人口)×100,000

喫煙の状況 国民健康栄養調査および東京都民の健康・栄養状況より

全国 年	(%)		喫煙状況	総数	20-29歳	30-39	40-49	50-59	60-69	70歳以上
	性別									
平成22年	男性	現在習慣的に喫煙している者	32.2	34.2	42.1	42.4	40.3	27.4	15.6	
		過去習慣的に喫煙している者	30.6	8.2	20.0	25.2	30.2	41.3	41.9	
		喫煙しないもの	37.1	57.6	37.9	32.4	29.5	31.4	42.5	
	女性	現在習慣的に喫煙している者	8.4	12.8	14.2	13.6	10.4	4.5	2.0	
		過去習慣的に喫煙している者	6.6	7.2	14.4	6.7	5.7	5.0	3.7	
		喫煙しないもの	85.0	80.1	71.4	79.7	83.9	90.5	94.4	
平成21年	男性	現在習慣的に喫煙している者	38.2	40.1	51.2	49.1	44.0	33.7	19.3	
		過去習慣的に喫煙している者	25.9	5.2	16.2	22.2	28.5	34.5	34.0	
		喫煙しないもの	35.9	54.7	32.6	28.7	27.5	31.8	46.7	
	女性	現在習慣的に喫煙している者	10.9	16.2	17.5	15.2	11.7	7.4	4.9	
		過去習慣的に喫煙している者	6.0	5.4	11.4	7.0	7.4	5.0	2.5	
		喫煙しないもの	83.0	78.4	71.1	77.9	80.9	87.7	92.6	
平成20年	男性	現在習慣的に喫煙している者	36.8	41.2	48.6	51.9	41.2	32.6	19.1	
		過去習慣的に喫煙している者	28.8	6.6	16.9	18.4	34.1	36.9	40.2	
		喫煙しないもの	34.4	52.2	34.5	29.7	24.7	30.5	40.7	
	女性	現在習慣的に喫煙している者	9.1	14.3	18.0	13.4	9.5	4.9	3.2	
		過去習慣的に喫煙している者	5.3	4.8	11.5	5.9	4.3	4.2	3.4	
		喫煙しないもの	85.6	80.9	70.5	80.7	86.1	90.9	93.3	
平成19年	男性	現在習慣的に喫煙している者	39.4	47.5	55.6	49.1	42.3	32.8	18.6	
		過去習慣的に喫煙している者	22.7	4.6	11.2	21.8	26.1	29.9	30.6	
		喫煙しないもの	37.9	47.8	33.2	29.1	31.6	37.3	50.7	
	女性	現在習慣的に喫煙している者	11.0	16.7	17.2	17.9	9.3	7.3	3.7	
		過去習慣的に喫煙している者	5.1	5.6	11.4	6.1	3.9	2.4	2.8	
		喫煙しないもの	83.9	77.8	71.4	76.0	86.8	90.3	93.5	
平成18年	男性	現在習慣的に喫煙している者	39.9	45.1	53.3	46.5	46.2	34.8	19.9	
		過去習慣的に喫煙している者	21.4	4.7	14.0	21.6	24.9	26.0	28.4	
		喫煙しないもの	38.7	50.3	32.7	31.9	28.9	39.2	51.7	
	女性	現在習慣的に喫煙している者	10.0	17.9	16.4	13.8	9.2	6.4	2.8	
		過去習慣的に喫煙している者	4.5	4.4	9.9	4.8	4.0	2.6	2.4	
		喫煙しないもの	85.5	77.6	73.8	81.4	86.8	91.1	94.8	

現在習慣的に喫煙している者： これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている(吸っていた)者のうち、「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者

過去習慣的に喫煙していた者： これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている(吸っていた)者のうち、「この1ヶ月間にたばこを吸っていない」と回答した者

喫煙しない者： 「まったく吸ったことがない」又は「吸ったことはあるが、合計100本未満で6ヶ月未満である」と回答した者

喫煙の状況 国民健康栄養調査および東京都民の健康・栄養状況より 続き

東京 年	(%) 性別	喫煙状況	総数	20-29歳	30-39	40-49	50-59	60-69	70歳 以上
平成22年	男性	現在習慣的に喫煙している者	33.9	30.0	48.3	40.0	40.8	19.6	23.2
		過去習慣的に喫煙している者	25.6	0.0	16.7	16.0	26.5	46.4	35.7
		喫煙しないもの	40.2	70.0	35.0	44.0	32.7	32.1	41.1
		無回答	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0
	女性	現在習慣的に喫煙している者	11.2	15.2	17.5	15.1	17.3	4.6	1.6
		過去習慣的に喫煙している者	10.6	9.1	22.8	5.7	11.5	7.7	6.6
		喫煙しないもの	77.9	75.8	57.9	79.2	71.2	87.7	91.8
		無回答	0.3	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0
平成21年	男性	現在習慣的に喫煙している者	36.1	39.1	39.0	54.1	31.0	39.3	23.2
		過去習慣的に喫煙している者	26.9	8.7	17.1	24.3	47.6	29.5	25.0
		喫煙しないもの	36.5	52.2	43.9	21.6	21.4	31.1	51.8
		無回答	—	—	—	—	—	—	—
	女性	現在習慣的に喫煙している者	15.7	23.1	17.4	22.0	14.3	13.2	8.8
		過去習慣的に喫煙している者	7.2	2.6	8.7	14.0	8.6	7.4	2.9
		喫煙しないもの	77.1	74.4	73.9	64.0	77.1	79.4	88.2
		無回答	—	—	—	—	—	—	—
平成20年	男性	現在習慣的に喫煙している者	34.7	41.4	57.9	35.0	42.9	24.2	20.8
		過去習慣的に喫煙している者	32.1	10.3	21.1	22.5	38.1	42.4	41.5
		喫煙しないもの	32.5	44.8	21.1	42.5	19.0	31.8	37.7
		無回答	0.7	3.4	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0
	女性	現在習慣的に喫煙している者	12.8	6.1	20.5	14.6	20.8	8.5	9.2
		過去習慣的に喫煙している者	5.4	3.0	9.1	6.3	3.8	8.5	1.3
		喫煙しないもの	81.5	90.9	70.5	77.1	75.5	82.9	89.5
		無回答	0.3	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0
平成19年	男性	現在習慣的に喫煙している者	31.0	47.6	43.9	40.5	28.6	18.6	19.6
		過去習慣的に喫煙している者	21.2	0.0	7.3	10.8	35.7	30.2	32.1
		喫煙しないもの	46.9	52.4	48.8	45.9	35.7	51.2	46.4
		無回答	0.9	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	1.8
	女性	現在習慣的に喫煙している者	11.7	18.5	27.1	14.7	9.8	6.0	1.5
		過去習慣的に喫煙している者	4.5	3.7	6.3	14.7	4.9	0.0	1.5
		喫煙しないもの	83.8	77.8	66.7	70.6	85.4	94.0	96.9
		無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平成18年	男性	現在習慣的に喫煙している者	36.7	46.2	44.6	48.2	29.8	38.6	14.5
		過去習慣的に喫煙している者	22.2	2.6	17.9	12.5	36.2	25.0	36.4
		喫煙しないもの	39.7	46.2	37.5	37.5	31.9	36.4	49.1
		無回答	1.3	5.1	0.0	1.8	2.1	0.0	0.0
	女性	現在習慣的に喫煙している者	14.7	18.9	20.3	12.2	25.9	9.5	1.7
		過去習慣的に喫煙している者	5.6	5.4	6.3	10.2	7.4	1.6	3.4
		喫煙しないもの	77.6	75.7	72.2	75.5	63.0	87.3	91.4
		無回答	2.1	0.0	1.3	2.0	3.7	1.6	3.4

現在習慣的に喫煙している者： これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている(吸っていた)者のうち、「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者
 過去習慣的に喫煙していた者： これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている(吸っていた)者のうち、「この1ヶ月間にたばこを吸っていない」と回答した者
 喫煙しない者： 「まったく吸ったことがない」又は「吸ったことはあるが、合計100本未満で6ヶ月未満である」と回答した者

1日の喫煙本数 国民健康栄養調査および東京都民の健康・栄養状況 より

全国		(人)							
年	性別	1日の喫煙本数	総数	20～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上
平成22年	総数	1-10本	860	116	206	145	116	131	146
		11-20	1,486	94	251	276	295	309	261
		21-30	303	10	47	43	62	97	44
		31-40	176	1	17	25	42	63	28
		41本以上	85	2	0	11	16	32	24
		総数	2,910	223	521	500	531	632	503
	男性	1-10本	549	76	106	90	63	95	119
		11-20	1,225	65	187	215	244	273	241
		21-30	266	6	37	33	58	91	41
		31-40	167	1	15	25	42	59	25
		41本以上	71	1	0	1	16	30	23
		総数	2,278	149	345	364	423	548	449
	女性	1-10本	311	40	100	55	53	36	27
		11-20	261	29	64	61	51	36	20
		21-30	37	4	10	10	4	6	3
		31-40	9	0	2	0	0	4	3
		41本以上	4	1	0	0	0	2	1
		総数	622	74	176	126	108	84	54
平成21年	総数	1-10本	507	81	105	84	69	73	95
		11-20	988	99	208	242	195	162	82
		21-30	256	15	54	46	73	52	16
		31-40	91	3	21	19	23	19	6
		41本以上	30	0	5	5	10	7	3
		総数	1,872	198	393	396	370	313	202
	男性	1-10本	312	41	67	53	39	45	67
		11-20	747	76	147	178	147	137	62
		21-30	229	12	46	41	71	46	13
		31-40	79	3	19	17	22	14	4
		41本以上	29	0	5	5	9	7	3
		総数	1,396	132	284	294	288	249	149
	女性	1-10本	195	40	38	31	30	28	28
		11-20	241	23	61	64	48	25	20
		21-30	27	3	8	5	2	6	3
		31-40	12	0	2	2	1	5	2
		41本以上	1	0	0	0	1	0	0
		総数	476	66	109	102	82	64	53

東京 年	性別	1日の 喫煙本数	(人)						
			総数	20～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上
平成22年	総数	1-10本	67	6	24	8	11	7	11
		11-20	137	9	28	26	30	23	21
		21-30	22	1	8	2	3	5	3
		31-40	17	0	1	3	4	7	2
		41本以上	4	1	0	0	0	3	0
	総数	247	17	61	39	48	45	37	
	男性	1-10本	41	4	13	6	5	4	9
		11-20	99	5	19	17	21	19	18
		21-30	19	0	6	2	3	5	3
		31-40	17	0	1	3	4	7	2
		41本以上	3	0	0	0	0	3	0
	総数	179	9	39	28	33	38	32	
	女性	1-10本	26	2	11	2	6	3	2
		11-20	38	4	9	9	9	4	3
		21-30	3	1	2	0	0	0	0
31-40		0	0	0	0	0	0	0	
41本以上		1	1	0	0	0	0	0	
総数	68	8	22	11	15	7	5		
平成21年	総数	1-10本	68	9	11	13	9	14	12
		11-20	97	7	14	25	15	23	13
		21-30	22	2	5	2	4	5	4
		31-40	20	1	2	4	2	8	3
		41本以上	11	1	1	2	3	3	1
	総数	218	20	33	46	33	53	33	
	男性	1-10本	43	4	8	7	6	10	8
		11-20	67	4	8	14	13	17	11
		21-30	20	1	4	2	4	5	4
		31-40	14	1	1	4	1	5	2
		41本以上	11	1	1	2	3	3	1
	総数	155	11	22	29	27	40	26	
	女性	1-10本	25	5	3	6	3	4	4
		11-20	30	3	6	11	2	6	2
		21-30	2	1	1	0	0	0	0
31-40		6	0	1	0	1	3	1	
41本以上		0	0	0	0	0	0	0	
総数	63	9	11	17	6	13	7		

平成22年度:合計100本以上、または6ヶ月以上たばこを吸っている者の1日の喫煙本数

平成21年度:合計100本以上、または6ヶ月以上たばこを吸っている(吸っていた)者の喫煙本数

ぜん息の死亡者数 人口動態統計

全国 年	(人) 性別	総数	年齢						
			0-4 歳	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34
平成 22 年	総数	2065	4	1	1	4	5	4	15
	男性	898	4	1	1	3	3	2	9
	女性	1167	-	-	-	1	2	2	6
平成 21 年	総数	2139	3	2	2	3	5	9	20
	男性	934	2	2	1	2	2	8	11
	女性	1205	1	-	1	2	3	1	9
平成 20 年	総数	2348	5	2	2	3	7	10	15
	男性	1085	2	1	1	1	5	8	11
	女性	1263	3	1	1	2	2	2	4
平成 19 年	総数	2540	8	5	3	6	5	14	15
	男性	1135	3	2	3	5	3	9	8
	女性	1405	5	3	-	1	2	5	7
平成 18 年	総数	2778	11	2	3	4	9	18	29
	男性	1290	7	2	3	2	6	13	22
	女性	1488	4	-	-	2	3	5	7

全国 年	性別	年齢							
		35-39 歳	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74
平成 22 年	総数	27	18	22	30	46	69	93	157
	男性	18	9	16	20	23	34	62	76
	女性	9	9	6	10	23	35	31	81
平成 21 年	総数	27	36	29	32	42	55	109	143
	男性	19	21	20	13	25	33	59	79
	女性	8	15	9	19	17	22	50	64
平成 20 年	総数	28	40	36	37	76	96	117	179
	男性	16	21	18	19	47	64	76	115
	女性	12	19	18	18	29	32	41	64
平成 19 年	総数	31	33	39	47	68	93	143	217
	男性	17	20	20	27	40	55	83	125
	女性	14	13	19	20	28	38	60	92
平成 18 年	総数	31	26	29	48	88	97	163	249
	男性	20	16	13	29	53	54	101	142
	女性	11	10	16	19	35	43	62	107

全国 年	性別	年齢							不詳
		75-79 歳	80-84	85-89	90-94	95-99	100 歳以上		
平成 22 年	総数	249	340	425	345	176	34	-	
	男性	131	169	173	108	31	5	-	
	女性	118	171	252	237	145	29	-	
平成 21 年	総数	284	387	407	338	167	37	2	
	男性	150	196	160	90	34	6	2	
	女性	134	191	247	248	133	31	-	
平成 20 年	総数	320	411	444	321	168	31	-	
	男性	168	214	165	96	34	3	-	
	女性	152	197	279	225	134	28	-	
平成 19 年	総数	345	440	423	399	175	30	1	
	男性	165	232	161	108	42	6	1	
	女性	180	208	262	291	133	24	-	
平成 18 年	総数	378	476	515	405	163	34	-	
	男性	205	229	206	120	42	5	-	
	女性	173	247	309	285	121	29	-	

ぜん息の死亡者数 人口動態統計

東京 年	(人) 性別	総数	年齢						
			0-4歳	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34
平成22年	総数	187	-	-	-	-	-	-	3
	男性	87	-	-	-	-	-	-	2
	女性	100	-	-	-	-	-	-	1
平成21年	総数	164	-	-	-	-	1	1	1
	男性	65	-	-	-	-	-	1	1
	女性	99	-	-	-	-	1	-	-
平成20年	総数	183	1	1	1	-	-	3	1
	男性	82	-	-	-	-	-	2	1
	女性	101	1	1	1	-	-	1	-
平成19年	総数	224	-	-	-	-	-	1	1
	男性	105	-	-	-	-	-	1	1
	女性	119	-	-	-	-	-	-	-
平成18年	総数	256	1	-	-	1	1	2	5
	男性	124	-	-	-	1	1	2	3
	女性	132	1	-	-	-	-	-	2

東京		年齢								
		35-39歳	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	
平成22年	総数	3	3	3	7	4	9	10	16	
	男性	2	1	1	3	2	8	7	8	
	女性	1	2	2	4	2	1	3	8	
平成21年	総数	4	4	1	3	3	6	13	15	
	男性	2	2	1	-	2	4	6	7	
	女性	2	2	-	3	1	2	7	8	
平成20年	総数	-	4	6	3	5	12	13	17	
	男性	-	3	3	2	3	7	9	11	
	女性	-	1	3	1	2	5	4	6	
平成19年	総数	5	3	6	5	8	9	12	16	
	男性	4	2	4	3	5	5	8	8	
	女性	1	1	2	2	3	4	4	8	
平成18年	総数	6	1	4	8	15	10	18	25	
	男性	1	1	1	4	13	6	16	10	
	女性	5	-	3	4	2	4	2	15	

東京		年齢							不詳
		75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	100歳以上		
平成22年	総数	24	26	46	19	11	3	-	
	男性	13	11	18	8	2	1	-	
	女性	11	15	28	11	9	2	-	
平成21年	総数	21	29	25	25	11	1	-	
	男性	14	12	7	5	-	1	-	
	女性	7	17	18	20	11	-	-	
平成20年	総数	31	37	23	15	9	1	-	
	男性	13	15	7	5	1	-	-	
	女性	18	22	16	10	8	1	-	
平成19年	総数	40	37	36	30	15	-	-	
	男性	16	20	13	11	4	-	-	
	女性	24	17	23	19	11	-	-	
平成18年	総数	28	53	40	26	10	2	-	
	男性	10	22	18	10	5	-	-	
	女性	18	31	22	16	5	2	-	

ぜん息の死亡率 人口動態統計

全国 年	性別	(人口 10 万人対)							
		総数	0-4 歳	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34
平成 22 年	総数	1.6	0.1	0	0	0.1	0.1	0.1	0.2
	男性	1.5	0.1	0	0	0.1	0.1	0.1	0.2
	女性	1.8	-	-	-	0	0.1	0.1	0.1
平成 21 年	総数	1.7	0.1	0	0	0	0.1	0.1	0.2
	男性	1.5	0.1	0.1	0	0	0.1	0.2	0.3
	女性	1.9	0	-	0	0.1	0.1	0	0.2
平成 20 年	総数	1.9	0.1	0	0	0	0.1	0.1	0.2
	男性	1.8	0.1	0	0	0	0.1	0.2	0.2
	女性	2	0.1	0	0	0.1	0.1	0.1	0.1
平成 19 年	総数	2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2
	男性	1.8	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2
	女性	2.2	0.2	0.1	-	0	0.1	0.1	0.2
平成 18 年	総数	2.2	0.2	0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3
	男性	2.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	0.5
	女性	2.3	0.2	-	-	0.1	0.1	0.1	0.2

全国		35-39 歳	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74
平成 22 年	総数	0.3	0.2	0.3	0.4	0.5	0.7	1.1	2.2
	男性	0.4	0.2	0.4	0.5	0.5	0.7	1.6	2.3
	女性	0.2	0.2	0.2	0.3	0.5	0.7	0.7	2.2
平成 21 年	総数	0.3	0.4	0.4	0.4	0.5	0.6	1.3	2.1
	男性	0.4	0.5	0.5	0.3	0.6	0.7	1.5	2.5
	女性	0.2	0.4	0.2	0.5	0.4	0.5	1.1	1.7
平成 20 年	総数	0.3	0.5	0.5	0.5	0.8	1.1	1.5	2.6
	男性	0.3	0.5	0.5	0.5	1.0	1.5	2.0	3.6
	女性	0.3	0.5	0.5	0.5	0.6	0.7	1.0	1.7
平成 19 年	総数	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	1.1	1.8	3.1
	男性	0.4	0.5	0.5	0.7	0.8	1.3	2.2	3.9
	女性	0.3	0.3	0.5	0.5	0.5	0.9	1.5	2.5
平成 18 年	総数	0.3	0.3	0.4	0.6	0.8	1.2	2.1	3.7
	男性	0.4	0.4	0.3	0.7	1	1.4	2.8	4.6
	女性	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	1	1.6	2.9

全国		75-79 歳	80-84	85-89	90-94	95-99	100 歳以上
平成 22 年	総数	4.2	7.8	17.4	33.6	59.1	77.4
	男性	5.1	9.9	23.2	44.5	55.4	85.3
	女性	3.5	6.4	14.8	30.3	60	76.2
平成 21 年	総数	4.9	9.2	17.5	35	53.5	77.1
	男性	6.0	11.9	22.7	38	56.7	85.7
	女性	4.1	7.4	15.3	34	52.8	75.6
平成 20 年	総数	5.6	10.2	20.5	33.8	58.9	75.6
	男性	6.8	13.7	25.7	40.9	61.8	50
	女性	4.7	7.9	18.3	31.4	58	80
平成 19 年	総数	6.2	11.4	20.7	43.2	67.3	85.7
	男性	6.9	15.9	26.6	47.2	84	120
	女性	5.7	8.7	18.2	41.9	63.3	80
平成 18 年	総数	7	13.1	26.6	45.6	69.4	117.2
	男性	8.8	17.1	35.8	54.3	93.3	125
	女性	5.6	10.7	22.8	42.7	63.7	120.8

ぜん息の死亡率 人口動態統計および住民基本台帳による東京都の世帯と人口

東京		(人口 10 万人対)							
年	性別	総数	0-4 歳	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34
平成 22 年	総数	1.5	-	-	-	-	-	-	0.3
	男性	1.4	-	-	-	-	-	-	0.4
	女性	1.6	-	-	-	-	-	-	0.2
平成 21 年	総数	1.3	0.2	0.2	0.2	0.0	0.1	0.1	0.1
	男性	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
	女性	1.6	0.4	0.4	0.4	0.0	0.3	0.0	0.0
平成 20 年	総数	1.5	0.2	0.2	0.2	-	-	0.3	0.1
	男性	1.3	-	-	-	-	-	0.4	0.2
	女性	1.6	1.2	-	1.3	-	0.3	0.3	0.0
平成 19 年	総数	1.8	-	-	-	-	-	0.1	0.1
	男性	1.7	-	-	-	-	-	0.2	0.2
	女性	1.9	-	-	-	-	-	-	-
平成 18 年	総数	2.1	0.2	-	-	0.2	0.1	0.2	0.4
	男性	2.0	-	-	-	0.4	0.2	0.4	0.5
	女性	2.1	0.4	-	-	-	-	-	0.4

東京		35-39 歳	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74
平成 22 年	総数	0.3	0.3	0.4	1.0	0.5	1.0	1.3	2.5
	男性	0.3	0.2	0.2	0.8	0.5	1.9	1.9	2.8
	女性	0.2	0.4	0.5	1.2	0.5	0.2	0.7	2.3
平成 21 年	総数	0.4	0.4	0.1	0.4	0.4	0.7	1.7	2.4
	男性	0.3	0.4	0.2	0.0	0.5	1.0	1.7	2.4
	女性	0.4	0.4	0.0	0.9	0.2	0.5	1.8	2.3
平成 20 年	総数	-	0.4	0.8	0.4	0.6	1.5	1.8	2.7
	男性	-	0.6	0.7	0.6	0.7	1.8	2.6	3.8
	女性	0.0	-0.2	0.7	0.6	0.4	1.2	1.6	2.1
平成 19 年	総数	0.5	0.3	0.8	0.7	0.8	1.2	1.7	2.6
	男性	0.7	0.4	1.0	0.8	1.0	1.4	2.4	2.8
	女性	0.2	0.2	0.6	0.6	0.6	1.0	1.1	2.4
平成 18 年	総数	0.6	0.1	0.6	1.1	1.6	1.3	2.6	4.1
	男性	0.2	0.2	0.3	1.0	2.7	1.6	5.0	3.7
	女性	1.0	-	0.9	1.1	0.4	1.0	0.5	4.5

東京		75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	100 歳以上
平成 22 年	総数	4.7	7.5	24.5	24.5	46.5	83.3
	男性	5.9	8.2	30.9	40.9	40.9	200.4
	女性	3.8	7.0	21.6	19.0	48.0	64.5
平成 21 年	総数	4.2	8.7	14.2	33.6	50.1	30.7
	男性	6.6	9.4	13.1	26.0	0.0	215.5
	女性	2.5	8.3	14.6	36.2	62.9	0.0
平成 20 年	総数	6.5	11.8	13.8	20.6	43.9	35.0
	男性	6.4	12.6	14.0	26.0	23.8	-
	女性	6.8	13.5	18.4	34.0	41.6	-
平成 19 年	総数	8.8	12.4	22.7	42.9	78.7	-
	男性	8.3	18.1	27.1	59.5	102.6	-
	女性	9.1	9.1	20.8	36.9	72.6	-
平成 18 年	総数	6.4	18.8	26.8	38.5	57.5	83.5
	男性	5.4	21.6	39.3	55.2	139.2	-
	女性	7.1	17.2	21.2	32.4	36.2	98.7

死亡率は、各年の「人口動態統計」の死亡者数および各年の「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」の1月1日の人口から算出した。

治療前の臨床症状に基づく小児気管支喘息の重症度分類 (小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2012 より)

重症度	症状程度ならびに頻度
間欠型	年に数回、季節性に咳嗽、軽度喘鳴が出現する。 時に呼吸困難を伴うこともあるが、 β_2 刺激薬の頓用で短期間で症状は改善し、持続しない。
軽症持続型	咳嗽、軽度喘鳴が1回/月以上、1回/週末未満。 時に呼吸困難を伴うが、持続は短く、日常生活が障害されることは少ない。
中等症持続型	咳嗽、軽度喘鳴が1回/週以上。毎日は持続しない。 時に中・大発作となり日常生活が障害されることがある。
重症持続型	咳嗽、軽度喘鳴が毎日持続する。 週1~2回、中・大発作となり日常生活や睡眠が障害される。
最重症持続型	重症持続型に相当する治療を行っていても症状が持続する。 しばしば夜間の中・大発作で時間外受診し、入退院を繰り返し、日常生活が制限される。

現在の治療ステップを考慮した小児気管支喘息の重症度の判断 (小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2012 より)

症状のみによる重症度(見かけ上の重症度)	現在の治療ステップを考慮した重症度(真の重症度)			
	治療ステップ1	治療ステップ2	治療ステップ3	治療ステップ4
間欠型 ・年に数回、季節性に咳嗽、軽度喘鳴が出現する。 ・時に呼吸困難を伴うが、 β_2 刺激薬頓用で短期間で症状が改善し、持続しない。	間欠型	軽症持続型	中等症持続型	重症持続型
軽症持続型 ・咳嗽、軽度喘鳴が1回/月以上、1回/週末未満。 ・時に呼吸困難を伴うが、持続は短く、日常生活が障害されることは少ない。	軽症持続型	中等症持続型	重症持続型	重症持続型
中等度持続型 ・咳嗽、軽度喘鳴が1回/週以上。毎日は持続しない。 ・時に中・大発作となり日常生活や睡眠が障害されることがある。	中等症持続型	重症持続型	重症持続型	最重症持続型
重症持続型 ・咳嗽、喘鳴が毎日持続する。 ・週に1~2回、中・大発作となり日常生活や睡眠が障害される。	重症持続型	重症持続型	重症持続型	最重症持続型

小児気管支喘息の長期管理に関する薬物療法プラン(2歳未満) (小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2012 より)

	治療ステップ1	治療ステップ2	治療ステップ3	治療ステップ4
基本治療	発作の強度に応じた薬物療法	ロイコトリエン受容体拮抗薬 *1 and/or DSCG	吸入ステロイド薬 (中用量) *2	吸入ステロイド薬 (高用量) *2 以下の併用も可 ロイコトリエン受容体拮抗薬 *1
追加治療	ロイコトリエン受容体拮抗薬 *1 and/or DSCG吸入	吸入ステロイド薬 (低用量) *2	ロイコトリエン受容体拮抗薬 *1 長時間作用性 β_2 刺激薬 (貼付薬あるいは経口薬)	長時間作用性 β_2 刺激薬 (貼付薬あるいは経口薬) テオフィリン徐放製剤(考慮) (血中濃度 5~10 μ g/mL)

DSCG: クロモグリク酸ナトリウム

*1 その他の小児喘息に適応のある経口抗アレルギー薬(Th2 サイトカイン阻害薬など)

*2 各吸入ステロイド薬の用量対比表(単位は μ g/日)

	低用量	中用量	高用量
FP, BDP, CIC	~100	~200	~400
BIS *3	~250	~500	~1000

FP:フルチカゾン
BDP:ベクロメタゾン
CIC:シクロソニド
BIS:ブデソニド吸入懸濁液

*3: 6か月以上すべての年齢

- 長時間作用性 β_2 刺激薬は症状がコントロールされたら中止するのを基本とする。経口薬は、12時間持続する1日2回投与の薬剤とする。
- テオフィリン徐放製剤は6か月未満の児に原則として対象にならない。適応を慎重にし、痙攣性疾患のある児には原則として推奨されない。発熱時には一時減量あるいは中止するかどうかあらかじめ指導しておくことが望ましい。
- 治療ステップ3以上の治療は小児の喘息治療に精通した医師の指導・管理のもとで行うのが望ましい。
- 治療ステップ4の治療は、吸入ステロイド薬も高用量であるため、十分な注意が必要であり、小児の喘息治療に精通した医師の指導・管理のもとで行う。

小児気管支喘息の長期管理に関する薬物療法プラン（2～5歳）（小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2012より）

	治療ステップ1	治療ステップ2	治療ステップ3	治療ステップ4
基本治療	発作の強度に応じた薬物療法	ロイコトリエン受容体拮抗薬 * 1 and/or DSCG and/or 吸入ステロイド薬(低用量) * 2	吸入ステロイド薬(中用量) * 2	吸入ステロイド薬(高用量) * 2 以下の併用も可 ・ロイコトリエン受容体拮抗薬 * 1 ・テオフィリン徐放製剤 ・長時間作用性 β_2 刺激薬の併用あるいはSFCへの変更
追加治療	ロイコトリエン受容体拮抗薬 * 1 and/or ・DSCG		ロイコトリエン受容体拮抗薬 * 1 長時間作用性 β_2 刺激薬の追加 あるいはSFCへの変更 テオフィリン徐放製剤(考慮)	以下を考慮 ・吸入ステロイド薬のさらなる増量 あるいは高用量 SFC ・経口ステロイド薬

DSCG:クロモグリク酸ナトリウム

SFC:サルメテロールキシナホ酸塩・フルチカゾンプロピオン酸エステル配合剤

* 1	その他の小児喘息に適応のある経口抗アレルギー薬(Th2 サイトカイン阻害薬など)			
* 2	各吸入ステロイド薬の用量対比表(単位は μ g/日)			
		低用量	中用量	高用量
	FP,BDP,CIC	~100	~200	~400
	BUD	~200	~400	~800
	BIS	~250	~500	~1000
		FP:フルチカゾン BDP:ベクロメタゾン CIC:シクレソニド BUD:ブデソニド BIS:ブデソニド吸入懸濁液		
①	長時間作用性 β_2 刺激薬は症状がコントロールされたら中止するのを基本とする。長時間作用性 β_2 刺激薬ドライパウダー定量吸入器(DPI)は自力吸入可能な5歳以上が適応となる。			
②	SFCへの変更の際にはその他の長時間作用性 β_2 刺激薬は中止する。SFCと吸入ステロイド薬の併用は可能であるが、吸入ステロイド薬の総量は各ステップの吸入ステロイド薬の指定範囲内とする。SFCの適応は5歳以上である。			
③	治療ステップ3の治療でコントロール困難な場合は小児の喘息治療に精通した医師の下での治療が望ましい。			
④	治療ステップ4の追加治療として、さらに高用量の吸入ステロイド薬やSFC、経口ステロイド薬の隔日投与、長期入院療法などが考慮されるが、小児の喘息治療に精通した医師の指導管理がより必要である。			

小児気管支喘息の長期管理に関する薬物療法プラン（6～15歳）（小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2012より）

	治療ステップ1	治療ステップ2	治療ステップ3	治療ステップ4
基本治療	発作の強度に応じた薬物療法	吸入ステロイド薬(低用量) * 2 and/or ロイコトリエン受容体拮抗薬 * 1 and/or DSCG	吸入ステロイド薬(中用量) * 2	吸入ステロイド薬(高用量) * 2 以下の併用も可 ・ロイコトリエン受容体拮抗薬 * 1 ・テオフィリン徐放製剤 ・長時間作用性 β_2 刺激薬の併用あるいはSFCへの変更
追加治療	・ロイコトリエン受容体拮抗薬 * 1 and/or ・DSCG	テオフィリン徐放製剤(考慮)	ロイコトリエン受容体拮抗薬 * 1 テオフィリン徐放製剤 長時間作用性 β_2 刺激薬の追加 あるいはSFCへの変更	以下を考慮 ・吸入ステロイド薬のさらなる増量 あるいは高用量 SFC ・経口ステロイド薬

DSCG:クロモグリク酸ナトリウム

SFC:サルメテロールキシナホ酸塩・フルチカゾンプロピオン酸エステル配合剤

* 1	その他の小児喘息に適応のある経口抗アレルギー薬(Th2 サイトカイン阻害薬など)			
* 2	各吸入ステロイド薬の用量対比表(単位は μ g/日)			
		低用量	中用量	高用量
	FP,BDP,CIC	~100	~200	~400
	BUD	~200	~400	~800
	BIS	~250	~500	~1000
		FP:フルチカゾン BDP:ベクロメタゾン CIC:シクレソニド BUD:ブデソニド BIS:ブデソニド吸入懸濁液		
①	長時間作用性 β_2 刺激薬は症状がコントロールされたら中止するのを基本とする。			
②	SFCへの変更の際にはその他の長時間作用性 β_2 刺激薬は中止する。SFCと吸入ステロイド薬の併用は可能であるが、吸入ステロイド薬の総量は各ステップの吸入ステロイド薬の指定範囲内とする。			
③	治療ステップ3の治療でコントロール困難な場合は小児の喘息治療に精通した医師の下での治療が望ましい。			
④	治療ステップ4の追加治療として、さらに高用量の吸入ステロイド薬やSFC、経口ステロイド薬の隔日投与、長期入院療法などが考慮されるが、小児の喘息治療に精通した医師の指導管理がより必要である。			

未治療の臨床所見による喘息重症度の分類（成人）（喘息予防・管理ガイドライン 2012 より）

重症度 ¹⁾		軽症間欠型	軽症持続型	中等症持続型	重症持続型
喘息症状の特徴	頻度	週 1 回未満	週 1 回以上だが毎日ではない	毎日	毎日
	強度	症状は軽度で短い	月 1 回以上日常生活や睡眠が妨げられる	週 1 回以上日常生活や睡眠が妨げられる	日常生活に制限
				短時間作用性吸入 β_2 刺激薬頓用がほとんど毎日必要	治療下でもしばしば増悪
	夜間症状	月に 2 回未満	月 2 回以上	週 1 回以上	しばしば
PEF FEV ₁ ²⁾	%FEV ₁ %PEF	80%以上	80%以上	60%以上 80%未満	60%未満
	変動	20%未満	20～30%	30%を超える	30%を超える

- 1) いずれか 1 つが認められればその重症度と判断する。
- 2) 症状からの判断は重症例や長期罹患例で重症度を過小評価する場合がある。呼吸機能は気道閉塞の程度を客観的に示し、その変動は気道過敏性と関連する。 $\%FEV_1 = (FEV_1 \text{測定値} / FEV_1 \text{予測値}) \times 100$ 、 $\%PEF = (PEF \text{測定値} / PEF \text{予測値または自己最良値}) \times 100$

現在の治療を考慮した喘息重症度の分類（成人）（喘息予防・管理ガイドライン 2012 より）

現在の治療における患者の症状	現在の治療ステップ			
	治療ステップ 1	治療ステップ 2	治療ステップ 3	治療ステップ 4
コントロールされた状態 ¹⁾ ●症状を認めない ●夜間症状を認めない	軽症間欠型	軽症持続型	中等症持続型	重症持続型
軽症間欠型相当 ²⁾ ●症状が週 1 回未満 ●症状は軽度で短い ●夜間症状は月に 2 回未満	軽症間欠型	軽症持続型	中等症持続型	重症持続型
軽症持続型相当 ³⁾ ●症状が週 1 回以上、しかし毎日ではない ●月 1 回以上日常生活や睡眠が妨げられる ●夜間症状は月 2 回以上	軽症持続型	中等症持続型	重症持続型	重症持続型
中等症持続型相当 ³⁾ ●症状が毎日ある ●短時間作用性吸入 β_2 刺激薬がほとんど毎日必要 ●週 1 回以上日常生活や睡眠が妨げられる ●夜間症状が週 1 回以上	中等症持続型	重症持続型	重症持続型	最重症持続型
重症持続型相当 ³⁾ ●治療下でもしばしば増悪 ●症状が毎日ある ●日常生活が制限される ●夜間症状がしばしば	重症持続型	重症持続型	重症持続型	最重症持続型

- 1) 同一治療継続 3～6 か月でステップダウンを考慮する。
- 2) 各治療ステップにおける治療内容を強化する。
- 3) 治療のアドヒアランスを確認し、必要に応じ是正してステップアップする。

喘息治療ステップ (喘息予防・管理ガイドライン 2012 より)

		治療ステップ1	治療ステップ2	治療ステップ3	治療ステップ4
長期管理薬	基本治療	吸入ステロイド薬 (低用量)	吸入ステロイド薬 (低～中用量)	吸入ステロイド薬 (中～高用量)	吸入ステロイド薬 (高用量)
		上記が使用できない場合は以下のいずれかを用いる LTRA テオフィリン徐放製剤 (症状が稀ならば必要なし)	上記で不十分な場合に以下いずれか1剤を併用 LABA (配合剤の使用可 ⁵⁾) LTRA テオフィリン徐放製剤	上記に下記のいずれか1剤、あるいは複数併用 LABA (配合剤の使用可 ⁵⁾) LTRA テオフィリン徐放製剤	上記に下記の複数を併用 LABA (配合剤の使用可) LTRA テオフィリン徐放製剤 上記のすべてでも管理不良の場合は下記のいずれかあるいは両方を追加 抗IgE抗体 ²⁾ 経口ステロイド薬 ³⁾
	追加治療	LTRA以外の抗アレルギー薬 ¹⁾	LTRA以外の抗アレルギー薬 ¹⁾	LTRA以外の抗アレルギー薬 ¹⁾	LTRA以外の抗アレルギー薬 ¹⁾
発作治療 ⁴⁾	吸入SABA	吸入SABA ⁵⁾	吸入SABA ⁵⁾	吸入SABA	

LTRA：ロイコトリエン受容体拮抗薬、LABA：長時間作用性β₂刺激薬、SABA：短時間作用性β₂刺激薬

- 1) 抗アレルギー薬は、メディエーター遊離抑制薬、ヒスタミンH₁-拮抗薬、トロンボキサンA₂阻害薬、Th2 サイトカイン阻害薬を指す。
- 2) 通年性吸入抗原に対して陽性かつ血清総IgE値が30～700IU/mLの場合に適用となる。
- 3) 経口ステロイド薬は短期間の間欠的投与を原則とする。他の薬剤で治療内容を強化し、かつ短期間の間欠投与でもコントロールが得られない場合は、必要最小量を維持量とする。
- 4) 軽度の発作までの対応を示し、それ以上の発作については7-2「急性増悪への対応」を参照。
- 5) ブデソニド/ホルモテロール配合剤を長期管理薬と発作治療薬の両方に使用する方法で薬物療法を行っている場合には、ブデソニド/ホルモテロール配合剤を発作治療薬に用いることもできる。長期管理と発作治療を合わせて1日8吸入までとするが、一時的に1日合計12吸入(ブデソニドとして1,920μg、ホルモテロールフマル酸塩水和物として54μg)まで増量可能である。ただし、1日8吸入を超える場合は速やかに医療機関を受診するよう患者に説明する。

吸入ステロイド薬と長時間作用性 β_2 刺激薬についてのガイドラインの記載

吸入ステロイド薬についてのガイドラインの記載

- 乳児**
- ・乳児喘息では吸入ステロイド薬の使用は困難なことが多いが、中等症持続型では吸入ステロイド薬(BDP-pMDI、FP-pMDI、CIC-pMDI150~200 μ g/日)を分2あるいはジェット式あるいはメッシュ式ネブライザーを用いてBIS0.5mg/日を定期吸入することを推奨する。
 - ・重症持続型の場合 吸入ステロイド薬(BDP-pMDI、FP-pMDI、CIC-pMDI)の250~400 μ g/日を分2または分3で、あるいはジェット式ネブライザーなどを用いてBIS1.0mg/日を分1または分2で吸入する。多くの場合、この治療だけではコントロールが困難であり、ロイコトリエン受容体拮抗薬の内服も併用することを推奨する。
- 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2012 P161
第8章 乳児喘息 9. 長期管理 2) 長期管理薬物療法プラン より
- 小児**
- ・治療ステップ2は、真の重症度が軽症持続型である場合に対応する治療であり、基本治療薬として低用量の吸入ステロイド薬あるいはロイコトリエン受容体拮抗薬やDSCG吸入を選択する。
 - ・治療ステップ3は、真の重症度が中等症持続型の場合に対応する治療であり、基本治療薬として中用量の吸入ステロイド薬を用いる。
 - ・治療ステップ4は、真の重症度が重症持続型の場合に対応する治療であり、基本治療薬として高用量の吸入ステロイド薬を中心にロイコトリエン受容体拮抗薬や長時間作用性 β_2 刺激薬、テオフィリン徐放製剤を併用する。このような例は可能な限り小児の喘息治療に精通した医師の管理下で治療を行うことが望ましい。
- 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2012 P126~128
第7章 長期管理に関する薬物療法 3 長期管理における薬物療法の進め方 3) 各治療ステップにおける薬物療法の進め方 より
- 成人**
- ・吸入ステロイド薬は、すべての喘息患者に対する長期管理薬の第一選択薬と位置づけられる。
- 喘息予防・管理ガイドライン2012 P114
7-1 成人喘息の長期管理における薬物療法プラン 7-1-1 薬剤 1) 長期管理薬(コントローラー) (1)副腎皮質ステロイド薬 より

長時間作用性 β_2 刺激薬についてのガイドラインの記載

- 乳児**
- ・ β_2 刺激薬は抗炎症作用を有さず、長期間使用すると気道過敏性の亢進を引き起こす可能性が指摘されている。したがって、 β_2 刺激薬は基本的に発作治療薬であり、長期間継続して使用する薬(長期管理薬)ではない。夜間の発作をコントロールする目的で、就寝前に経口(12時間持続する1日2回投与の薬剤)や貼付により長時間作用性 β_2 刺激薬が用いられる場合があるが、このような治療をいつまでも継続しなければならない場合には、抗炎症作用を有する長期管理薬による治療を強化する。しかし、長期管理薬により発作がコントロールされるまでの間に頻回に発作を繰り返す乳児喘息では、一定期間、吸入ステロイド薬に長時間作用性 β_2 刺激薬を併用して使用せざるを得ない場合もある。
- 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2012 P158
第8章 乳児喘息 9 長期管理 1) 長期管理薬 (5) 長時間作用性 β_2 刺激薬 より
- 小児**
- ・本来、 β_2 刺激薬は気管支拡張薬であり、気管支収縮予防のため短期間用いられる薬剤であるが、抗炎症治療のみでは良好なコントロールが得られない場合に、長時間作用性のものを選択して用いることがある。吸入ステロイド薬と併用することが基本であり、症状がコントロールされたら中止するのを原則とする。
- 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2012 P119・120
第7章 長期管理に関する薬物療法 2 長期管理に用いられる薬剤 4) 長時間作用性 β_2 刺激薬 より
- 成人**
- ・長期管理薬としての β_2 刺激薬は長時間作用性の薬剤のみであり、吸入、貼付、あるいは経口的に投与される。これらの薬剤を長期管理薬として用いるときは吸入ステロイド薬と併用することが必須である。
- 喘息予防・管理ガイドライン2012 P115
7-1 成人喘息の長期管理における薬物療法プラン 7-1-1 薬剤 1) 長期管理薬(コントローラー) (2) 長時間作用性 β_2 刺激薬 より